

V144a      **バーチャル天文台による ALMA データの配信: 全体進捗報告**

白崎裕治, 川崎渉, 江口智士, 小宮悠, 小杉城治, 大石雅寿, 水本好彦 (国立天文台)

国立天文台天文データセンターでは、Japanese Virtual Observatory (JVO) の開発を行っている。国際バーチャル天文台連合 (IVOA) により勧告されたデータアクセス方式を利用したポータルサイトの開発や、すばる望遠鏡の処理済みデータの配信を行ってきた。IVOA による現段階での勧告済みのデータ検索仕様では、画像データやスペクトルデータについては定義されているが、電波観測で利用されている空間・波長等の3次元以上のデータからなるキューブデータに関する検索仕様はまだ定義されていないのが現状である。そこで、我々 JVO 開発グループは ALMA グループと協力し、データキューブをバーチャル天文台から配信するうえで必要となる検索仕様についての検討を開始した。ALMA データの場合、これまでに策定されている画像、スペクトルデータに比べ、データの次元数が増えることに加え、ALMA が生み出す高分解能データの特質により、一つの観測ファイル当りのデータ量について格段の増加が見込まれ、そうした状況にも適したデータアクセス方式の定義が必要となる。このことを念頭に、ALMA の科学評価データを利用した VO 配信サービスのプロトタイプを構築するとともに、JVO portal 上でも、これまでのすばる望遠鏡のデータ配信と同じ形式による簡便なデータ検索も可能となるサービスを構築した。また、データの中身を詳しく見ながら、巨大なデータセットから自分の欲しいデータのみを切り出してダウンロードをすることを目的とした ALMA VO Web/Desktop Viewer の開発を行った (江口、川崎の発表を参照)。本講演ではこれまでに完成している ALMA データ検索システムの概要を説明し、引き続き行われる2件の講演により ALMA VO Viewer の詳細な紹介を行う。